した。
ング協
会の主
会場の
ク」を
は「五
」、二
産鯖街

大型絵本に子ども夢中

敦賀市図書館 パネルシアターも

パネルシアターで子どもたちを楽しませる橋詰照美さん㊧ら＝敦賀市図書館で

大型絵本やパネルシアターを楽しむ「こどもの日のつどい」が二十一日、敦賀市東洋町の市図書館であり、地元の親子連れらが愉快な物語に耳を傾けた。

図書館で、子ども向けに絵本などを読み聞かせる地元の「杉の子サークル」が主催。メンバー五人が、四角い紙に描かれた動物を歌に乗せて紹介するパネルシアター、地面の下で暮らす生き物などをユニークに伝える大型絵本などを、順に披露した。福井国体のマスコットキャラクター「はぴりゅう」も登場し、子どもたちを喜ばせた。

サークル代表の橋詰照美さん(八〇)＝敦賀市津内町＝は「これからも子どもたちに楽しんでもらえるよう続けていきたい」と笑顔で話した。

（古根村進然）

前衛や古代文字「幅広い表現法」

敦賀で書道作品展

敦賀市沓見の書道家千葉半厓さん(八五)が主宰する「玄々社」の作品展が、同市東洋町のプラザ萬象で開かれている。古代文字から

約三百年
六代門主
ども押さ
に合わせ
日は細部
かれた御
間近で鑑賞
し、大谷
教授の沙
さんが講
解説した。
原祐爾住職
は「御絵伝
れいに修復
てうれし
を訪れて
人の教え

詩人・舘高重しのぶ

あわらで朗読と演奏

舘高重の詩の朗読に聴き入る市民ら＝あわら市中央公民館で

大正から昭和初期にかけて県内詩壇をリードし、若くして亡くなった旧金津町（現あわら市）の詩人・舘高重（一九〇四～三一）にスポットを当てた詩の朗読と音楽のコラボレーションイベントが二十一日、あわら市市姫一丁目の中央公民館で開かれた。多くの市民が、早世の詩人の作品とハープ、フルートのハーモニーを楽しんだ。

舘は、福井農林学校（現福井農林高）時代から文芸雑誌創刊に参画しながら多くの作品を発表。一九二七（昭和二）年には第一詩集「感情原形質」を出版し、翌年には萩原朔太郎らとともに「日本詩選集」に詩三編が掲載された。早くから父母兄弟を亡くし、妻とは結婚四カ月で死別。自身も結核を患って二十七歳でこの世を去った。

イベントは元市議の牧田孝男さん(六七)ら地元有志でつくる「偲ぶ会」が主催。舘の肖像写真が飾られた会場には、橋本達也市長や市民ら百八十人が詰め掛けた。

代表作「魚」や同窓会報に掲載された絶筆などの朗読の合間に、詩人の故則武三雄さんの詩評を紹介。舘のおいの邦夫さん(六三)は人となりを語り、「アベマリア」や「浜辺の歌」などがハープとフルートで演奏された。

訪れた女性の一人は地元の誇りとしながらも「寂しい詩が多かった」と舘の境遇に思いをはせた。

（中田誠司）

福井街角放送

6.00 トドウシ
30 ウェシ
7.00 おぐ
9.00 はるぐ
11.00 Ba G
1.00 J
3.00 A
30 P
4.00 ラミュネトランスミュージックワールドマストリーズ
ようこそ360度
Bo—lo—Go P tr mo
aniGrowTOPtecmo
ic&Hutsionta